

道の駅設置検討協議会 第4回会議要旨

日 時	平成28年3月24日(木)午前10時00分～11時30分
場 所	前橋プラザ元気21(5階)501学習室
出 席 者	<p>協議会委員： 都丸会長、小暮副会長、植木委員、中村委員、関根委員、狩野委員、高坂委員、藤野委員、相澤委員、浪川委員、小林委員、南委員、湯川委員、青木委員、伊能委員、長谷川委員、角田 勉委員、兼本委員、角田 雄二委員 代理：圓岡委員(木村氏)、中島委員(武藤氏) 欠席：萩原委員、平形委員、飯塚委員、韓委員</p> <p>オブザーバー： 国土交通相高崎河川国道事務所 伏見副所長、 群馬県道路整備課道路企画室 林室長 前橋市 細野副市長、岩佐産業経済部長、金井農政部長、中西都市計画部長、稲垣建設部長 代理：静文化スポーツ観光課長(倉林文化国際課長)</p> <p>事務局： (政策部)藤井部長、(政策推進課)谷内田課長、下坪室長、川崎副主幹、清水主任</p>
開催趣旨	・道の駅の整備の方向性・取組方針に関する考え方について
藤井政策部長 都丸会長 兼本委員	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p><進行：都丸会長></p> <p>3 議事</p> <p><兼本委員提供資料の説明> 前回の会議において、川場田園プラザの来客数と売上げの話がありましたので、資料を用意しました。5ページに売上高と来場者の推移があります。「好きな道の駅」ランキング1位になるころである、平成14から17年は集客数は伸びていますが、売上高は少し低迷している感じになっているのがわかると思います。分析ではこの部分にあまり触れられていませんが、これが現社長に変わったきっかけになったのではないかと考えます。その後は、すごい勢いで売上げが上がっており、今年は更に上がることが予想されます。現社長になりこの10年かけて好循環ができて現在の状況になっていることがわかると思います。参考資料として出させて頂きました。</p>

湯川委員	<p>< 湯川委員提供資料の説明 ></p> <p>前橋市のランドマーク、象徴的な道の駅にしたいと思い、友人のデザイナーにイラストで幾つかの案を作成してもらいました。やはり東京で「前橋市 = 豚」、「TONTON」というイメージを持っている人はいません。前橋市として強みを伝えたいという事を考えて「豚」、「TONTON」のイメージを内外に示したほうが良いと思い「豚のテーマパーク」のような形で作成しました。今後、実際のデザインは公募などにより選ぶことになると思いますが、コンセプトを先に決めてから細かい施設を決めていけばよいのではないかと思います。</p>
道の駅推進室	<p>< 道の駅の整備の方向性・取組方針に関する考え方について説明 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 ・資料 2 - 1 ・資料 2 - 2 ・資料 3 ・資料 4
都丸会長	<p>事務局から資料の説明がありましたが、前回会議において委員の皆様から頂いたご意見等を参考に事務局で資料 1 の「整備の方向性・取組方針に関する考え方」を修正しております。今後、このテーマに沿って事業者との意見交換などを行いながら、具体的な導入施設等が決まることとなりますので、本日は、この方向性や取組方針について議論をして頂き、取りまとめを行いたいと思います。</p>
植木委員	<p>成功したら必ず拡張されることが予想されるので、拡張の余地をふまえて配置を考える必要があります。2 期、3 期を見越した建物の配置について専門家に意見を聞いておく必要があると思います。</p>
都丸会長	<p>植木委員から拡張性のご意見がありましたが、資料 3 については、それぞれの施設を入れて仮に 7 h a とした場合のイメージということによろしいでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>日本一の魅力ある道の駅にするために、現在あるもので新しい魅力を作って、アピールする以外は難しいのではないかという事から、前回会議で委員の皆様から頂いたご意見を参考に「赤城」を前面に出した整備の方向性・取組方針とし、このイメージにあう「食」や「体験」をつくり売り出していきたいと考えています。また、本道の駅は全て行政で整備するのではなく、整備する段階から民間事業者の方に入って頂きたいと思っており、今後はこの資料を基に民間事業者との意見交換を行ない、具体的な導入施設や規模を決定したいと考えています。今回作成しました配置（案）イメージについてもこの意見交換を行なう為の基礎的なものとして捉えて頂きたいと思います。</p>

都丸会長	<p>前回会議からの大きな変更点として、「赤城」を前面に出すことになっていますが、今後はこれを基に、道の駅の整備を進めることになるので、非常に大切な部分であると思います。従ってこの「赤城」をテーマにすることについて、ご異議やご意見がある方は出して頂いて、なければ、この「赤城」をテーマとして次の導入施設イメージに進みたいと思いますが如何でしょうか。</p>
藤野委員	<p>前回の「前橋」よりも広がりを持ったイメージとなるため、整備の方向性・取組方針を「赤城を味わい、ここでしかできない赤城を体験する。」とすることは賛成です。ただし、地域ブランドをつくることも大切だと思います。その地域ブランドの名前が「赤城」となるかについては、今後検討していただきたいと思います。私は地域ブランドとしては更なる広がりや柔らかいイメージがある「あかぎ野」が良いと思います。</p>
都丸会長	<p>地域ブランドについては農政部が最初に「赤城の恵」を前橋市として打ち出し、今に続いています。藤野委員から地域ブランドについては「野」を入れたほうが良いのではというご意見がありましたが、まずは、整備の方向性として「ここにしかない赤城を味わい、ここでしかできない赤城を体験する。」ということとして「赤城」を前面に出しスタートすることとしてよろしいでしょうか。全員異議なしということで、この方向性で進めるものとして、次に4つのテーマや導入施設イメージについてご意見を伺いたいと思います。</p>
角田勉委員	<p>テーマ について、農畜産物の中に花等はあるのでしょうか。前橋はオリジナルの品種もあるので、花木も対象となるようにしていただきたいと考えます。</p>
政策推進課長	<p>花木も含むものとして考えていますが、表現については検討します。</p>
関根委員	<p>事務局へ質問です。今回テーマを から に絞りこんでいますが、規模や配置は決定したものは無く、今後の事業者との意見交換を行ない決定することですが、事業者の意向によりテーマをカットするようなことは無いと考えてよろしいでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>民間事業者をお願いするところではありますが、実施する事業者がない等の場合には、基本的に前橋市がテーマに沿った施設を作っていくものと考えています。来年度前半において、民間事業者にやってもらう部分と市がやる部分をしっかり整理したいと思っています。</p>
中村委員	<p>テーマ につきましては「防災・復旧の拠点となる場」ということで、重みのある言葉に変えて頂き、前の表現より進んでいるのではないかと期待しております。また、赤城という名称によって広域的な地域までカバーできると考えております。その為、吉岡地域を含む周辺地域ばかりではなく、県央部や首都圏</p>

	<p>の一部まで含めて果たすべき役割が赤城地域にはあるのではないかと考えております。</p> <p>施設については、資料4に色々な例があげられておりますが、ネクスコの基準から算定されたものが多いように思います。しかし、ネクスコ基準は広域的なことは考慮されていないと思いますので留意が必要です。具体的な施設としては、「自家発電機」は「自家発電所」位の規模が必要と思います。備蓄倉庫については常温管理ができるものが必要と思います。また故障車修理機能とありますが、それだけではなく、災害時に故障車を除却する機能も必要と思います。この赤城地域は道路状況全体の物流から考えると、太平洋と日本海、東北と名古屋、阪神の中間点であります。物流団地、工業団地、住宅団地等を含めた前橋地域の開発拠点ということも含め構想の中に入れていきたいと思っております。</p>
都丸会長	<p>道の駅の防災に対する役割は非常に重要であると思っております。具体的な施設などにつきましては、今後事務局でよく検討して頂きたいと思っております。</p>
藤野委員	<p>「赤城南麓」という表現については、赤城全体の魅力を伝えることから、「赤城山麓」の方がよいのではないのでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>この「赤城南麓」としたのは、テーマに掲げたスローシティに関係しています。このスローシティとはイタリアから生まれた概念で、前橋市の姉妹都市である、オルヴィエート市がこの考えを提唱する協会の事務局となっています。このスローシティには多様性が有ることが豊かであるという考えがあり、本市の目指すものと合致することから登録を検討しており、その登録を「赤城南麓」で考えていることから今回の表現としましたが、赤城全体がわかった方がよいのではないかとのご意見もありますので、表現について検討させていただきます。</p>
都丸会長	<p>来年度検討する導入施設につきましても、希望やご意見がございましたらお願いいたします。</p>
湯川委員	<p>宇和島市の道の駅において農家の女性が提供するランチバイキングが非常に好評であるというニュースをみました。テーマやテーマのコミュニティなど含めて前橋市の道の駅に参考になるのではないかと思いました。</p>
都丸会長	<p>私もコミュニティに関し、前橋市民にいかに利用していただけるかということが非常に重要なテーマであると思っております。実はこの3月に前橋商工会議所で刈谷PAの視察に行っていました。刈谷PAは高速道路と一般道路両方から利用でき非常に賑わいのある施設です。そこで、高速利用者だけではなく、一般道からの利用の多さを見て、地域から愛されている施設であると感じました。外から集客することも重要ですが、前橋市民がみんなで使える道の駅とすることも大切であると思っております。</p>

南委員	<p>テーマ について、農産物直売所等あると思いますので、そこで季節ごとのおすすめレシピ等の情報を提供することにより、購入額が増えるのではないのでしょうか。テーマ は、自転車について利用者の安全面も考え、市でサイクリングコースの整備を検討する必要があると思います。</p> <p>また、テーマ の情報の提供については、「前橋のことは何でも分かる」様な施設とすることにより、地域外からの来訪者だけではなく、地域内からの利用もあり、集客効果があると思います。</p> <p>テーマ については確認なのですが、再生可能エネルギー、あるいは自然エネルギー等を利用した発電設備などを想定しているという事でしょうか。</p>
政策推進課長	<p>現在、前橋市として、地域分散型エネルギーインフラシステムについて検討しており、この道の駅についても前橋市の資源を活かした分散型エネルギーが導入できればと考えています。</p>
圓岡委員 (代理木村氏)	<p>情報発信として、電波で広域的に情報を発信すると共に、その場にいる人たちにその場で情報を発信できることも必要と思います。また、防災に関して、東日本大震災の時に、当日深夜まで、富士見地域の水が出ないという情報が私どもの放送局によせられて来ていました。水道局に確認したところ、富士見地域はポンプが電気で動いているため、停電期間水が出なくなっていたそうです。その様な時に、この道の駅で水が提供できるようなことができると良いと思います。食に関しては地元産にこだわって食材を提供すると単価が上がってしまうのではないかと思います。その際にコンビニを併設すると、単価の高い安いが生じてしまうので配慮が必要であると思います。また、地域の人々の利用を考え、バスターミナルの設置を検討しても良いかと思います。地元の人がこの道の駅で待ち合わせをして役所、病院、空港などに行けたり、地域外の人がこのまで車で来てバスで前橋の観光ができたりするような拠点になると良いと思います。</p>
高坂委員	<p>先ほど、南委員より再生可能エネルギーの話がありましたが、広い駐車場を利用し、屋根を付けて太陽光発電をPFI事業のように民間活力の活用により整備するのは如何でしょうか。売電による安定した収入の柱になると思います。</p>
中村委員	<p>昨年の春に前橋商工会の交通運輸部会で、栃木、茨城の一部の道の駅を視察して参りました。その中に太陽光発電を導入した道の駅がありました。太陽光発電は財源まで考え、長期的にみた場合、有効であると思いますが、今挙げているような機能を充分動かすことは難しいと思います。現在、国交省は自家発電所を進めています。整備費は高いですが、安定しており、多様に使えるので自家発電所が一番よいのではないかとお聞きしましたので、報告させていただきます。</p>
高坂委員	<p>私のイメージでは、道の駅で使う電力を発電するのではなく、せっきく大きな</p>

	<p>駐車場があるので、そこを活用した売電用の太陽光発電を整備出来ればと思います。</p>
政策推進課長	<p>前橋は全国屈指の日照時間があります。頂いたご意見を参考にエネルギーの使い方を検討したいと思います。</p>
青木委員	<p>赤城山は富士山に次いで広大な裾野を持つといわれており、その中で豊富な水や標高差を活かした農業が行なわれています。その為、「ここでしか味わえない食」として、この豊かな農作物を前面に出して提供していくべきだと思います。茨城に「ポケットパークどきどき」という施設があります。そこでは、施設の農園で収穫した野菜を使ったランチバイキングなどがあり、私たちも何度も研修に行っています。私は以前から赤城の南面にそのような施設が必要であると思っています。先ほど会長からもありましたが、いかに地元の方に愛され、特に若い親子や女性に楽しんでもらえることが大切だと思います。それを考えた場合、子供達が来て遊べる芝生や水辺が必要ではないかと思います。また、農業体験という事が書かれていますが、実際に行うには1,000㎡では中途半端であり、どの様に使うのか疑問に思います。佐野の道の駅のように、隣接のいちごハウスと連携するなど検討してみてもいいのではないでしょうか。</p>
政策推進課長	<p>面積については仮という事で今後、検討します。</p> <p>また、親子や女性向けの雰囲気として、コミュニティスペースをゆったりとり、リラックスできる雰囲気が大事であると思っています。イメージとすると例えば北軽井沢の「ハルニレテラス」のような感じを考えています。今後は、先ほど説明したように、今回作成した整備の方向性やこのようなイメージを基に色々な事業者の方の話聞いて、施設を決めていきたいと考えています。</p>
藤野委員	<p>先日、視察で刈谷PAに行ってきましたが、小さい子供用の遊具があるだけで、他はたいした施設は無いにもかかわらず、ディズニーリゾートやUSJに次ぐ人気となっています。そういったところも参考になると思います。</p>
政策推進課長	<p>私たちも楽しめる施設というのは、施設や規模ではないことは認識しております。それを前橋の「赤城」と言うことでどのようなイメージで作ることができるのか、細かいことは来年になりますが、皆様のご意見を取り入れながら考えたいと思います。</p>
角田勉委員	<p>簡単にできて皆が楽しめることはあると思います。予定地は田んぼなので、それを活かして、小川があり、ドジョウなどのいる環境とすれば、子供達は遊びに来ます。</p> <p>それから先ほどのエネルギーの話について、私は中山間地で木質系バイオマスの実験に参加していますが、当面は手を出さないほうがよいと思います。現在</p>

浪川委員	<p>はまだ非常に不安定で使い勝手が悪いです。また、原油の値段がここまで下がると石油の方が安いです。マスコミは飛びつきますが、合理的ではありません。</p> <p>このテーマのスローシティライフについて、全てのテーマに関係することであり、この道の駅の全体のテーマとしても良いのではないかと考えます。このスローシティライフを具現化し対外的に発信する手段が「食」や「体験」などになるのではないかと思います。その中で、テーマの導入施設例として挙げられているものが、「多目的スペース」、「コンシェルジュデスク」、「サイクルステーション」だけであり、大きなテーマに対して寂しい印象を受けます。この道の駅が休憩機能とは別に地域内外に対してスローシティライフを大きく発信する場として検討も必要と思います。</p>
長谷川委員	<p>テーマの「ここにしかない食」と「こだわりの農業」について、現在、前橋市には多様な生産者や団体が沢山あります。女性に関して言えば県の「ぐんま女性アグリネットワーク」や前橋市内の「まえばしまジョーラ」などの団体があります。また、個人として農水省の「農業女子プロジェクト」にかかわり活動されている方もいます。もちろん女性生産者だけではなく、良農園さんやがってん野菜さんのような多様な生産者さんも沢山いらっしゃいます。前回会議にて、「農業だけでは人は呼べない」との意見を出しましたが、これは前橋の農業は多彩であり、一つのものに絞り込めないのではないかという意味です。そういった多彩なものを如何にこの道の駅でまとめあげていくか、また、それを如何に市外、県外に発信していくかという事もこの道の駅の方向性として考えて頂きたいと思います。</p> <p>また、現在、群馬の食や前橋の食が注目されるようになり、市外、県外に対して、個人対個人の取引の需要が大きくなっています。JAさんなどであれば、物流のシステムがありますが、個人では簡単にいかないことがあります。是非この道の駅で個人の取引を叶える物流のシステムについて検討頂きたいと思います。</p> <p>テーマのスローシティライフについては、グリーンツーリズムや農家民泊などとも連携して、市民が楽しめる場所にし、そこから県外へアピールをしていくことが望ましいと考えます。</p>
小林委員	<p>確認ですが、2020年の東京オリンピックまでにオープンできるのでしょうか。オリンピックまでの開業が施設のアピールとなり望ましいと考えられます。</p> <p>また、今回、事務局でまとめた整備の方向性・取組方針はよくできていると思いますが、今後、一番大事になっていくのはマネージメントであると思います。市の職員の方は人事異動もあるので、マネージャー候補をこれからの取り組みに入ってもらって、そういった人の視野から検討すべきだと思います。</p>
政策推進課長	<p>開業時期につきましては、前回までの資料では2020年度中のオープン予定となっていました。現在、東京オリンピックまでの開業を目指し検討をしています。</p>

	<p>す。 マネージャーの件ですが、我々も非常に重要であると考えており、どのタイミングから民間の方に入って頂くか、来年度前半の中で決めていきたいと考えています。</p>
相沢委員	<p>テーマ について、「赤城の夜空」という表現がありますが、赤城山から観る前橋の夜景は非常に綺麗に見えます。その為、是非、展望台のようなものが欲しいと思います。また「日本百名月を愛でる会」というコンベンション協会があるそうです。名月と言えば赤城山ですので、是非、前橋もこれに参加して欲しいと思います。</p>
植木委員	<p>先ほど、長谷川委員よりグリーンツーリズムの話がありましたが、私は南面道路周辺における農家民宿があると良いと思います。南面道路は夕食が食べられるレストランも多いので、B & B形式 (bed and breakfast) で朝食と宿泊だけを提供する農家民宿があれば、グリーンツーリズムと連携した取り組みができると思います。</p>
関根委員	<p>私も刈谷PAの視察に行ってきました。立ち寄り施設という考え方ではなくて、目的地の一つとしてそこへ行くという印象を受けました。道の駅は7割が地元の利用であるという話がありましたが、本道の駅も県外から立ち寄りの来的ることよりも、前橋の人たちが集える目的地としての方向性が良いのではないかと思います。また、現在、前橋市の交通網を用いて二次交通をどの様にするかを検討するため協議会が立ち上がりました。これから1年かけてLRT構想や結節点をどうの様にするかなど検討することになります。道の駅の整備はその後になりますが、駐車場の一角を利用した高速バス、乗合バスの乗車場の整備についても検討する必要があると思います。また、道の駅に来場したお客を案内する周遊観光的なものも必要になってくると思いますので検討頂きたいと思います。</p>
都丸会長	<p>最後に私からですが、テーマ の「全国市町村で農業産出額5位の「豚肉」という表現について、とても素晴らしい実績ではあるのですが、日本一の道の駅を目指す中で、「第5位」という表現は適切でしょうか。</p>
青木委員	<p>私は他で説明する際には「トップクラス」という表現をしております。</p>
政策推進課	<p>表現については検討します。</p>
都丸会長	<p>それでは、本日、皆様のご意見を全て拝聴したという事で、最終的なものは事務局と調整し、会長に一任という事で取りまとめたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。</p>

委員一同	全員了承 4 その他（政策推進課） 5 閉会（藤井政策部長）
------	--